

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

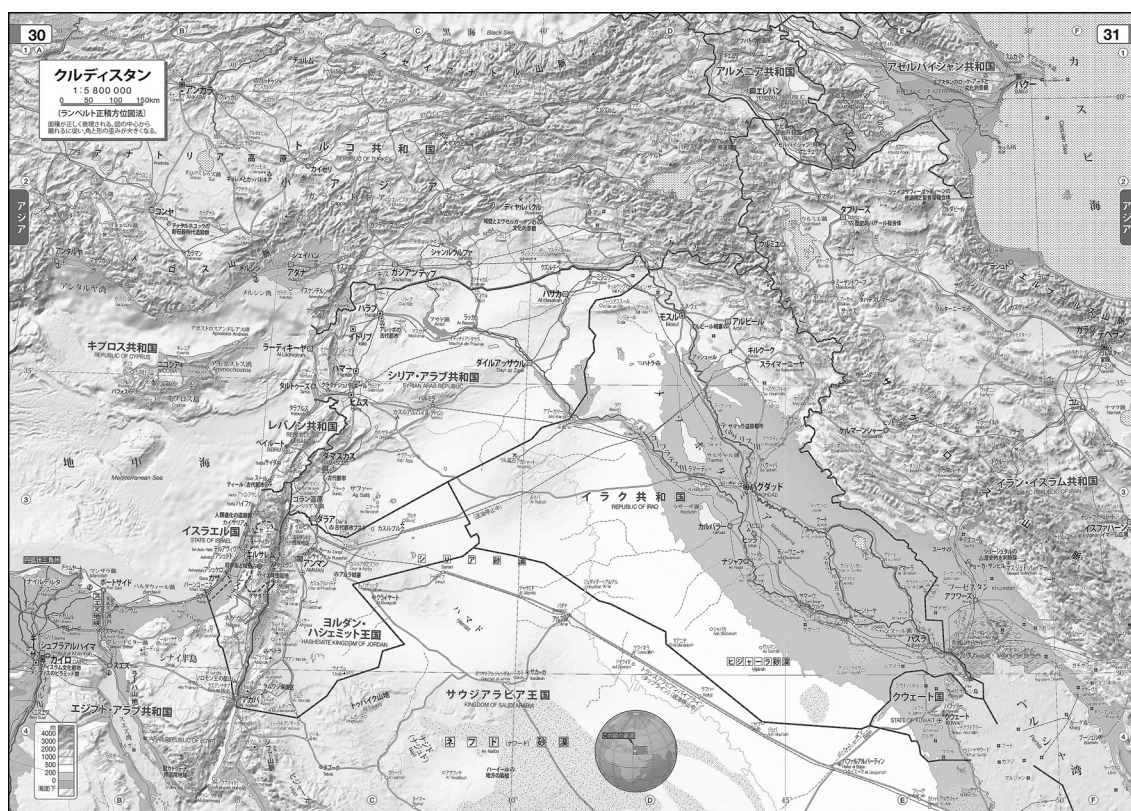
受理番号	学校	教科	種目	学年
28-103	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 314	高等地図帳 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

本書は高等学校地理歴史科地図として、地理歴史科(特に地理A, 地理B)の授業の際に、地理的・歴史的事象を空間的にとらえさせたり、日本と世界の現状や課題を把握させたりすることで、地理的な見方・考え方はもちろん、地図を活用する技能を身につけることができるように編修した。本書から得られる知識・考え方・技能は地理歴史科だけでなく、他科目・他教科や高校生活の全般、ひいては将来の進路においても活用してもらえるようにし、生徒が多面的かつグローバルな視野に立って考えたり、行動したりする態度を養うことのできる地図帳になるよう留意した。

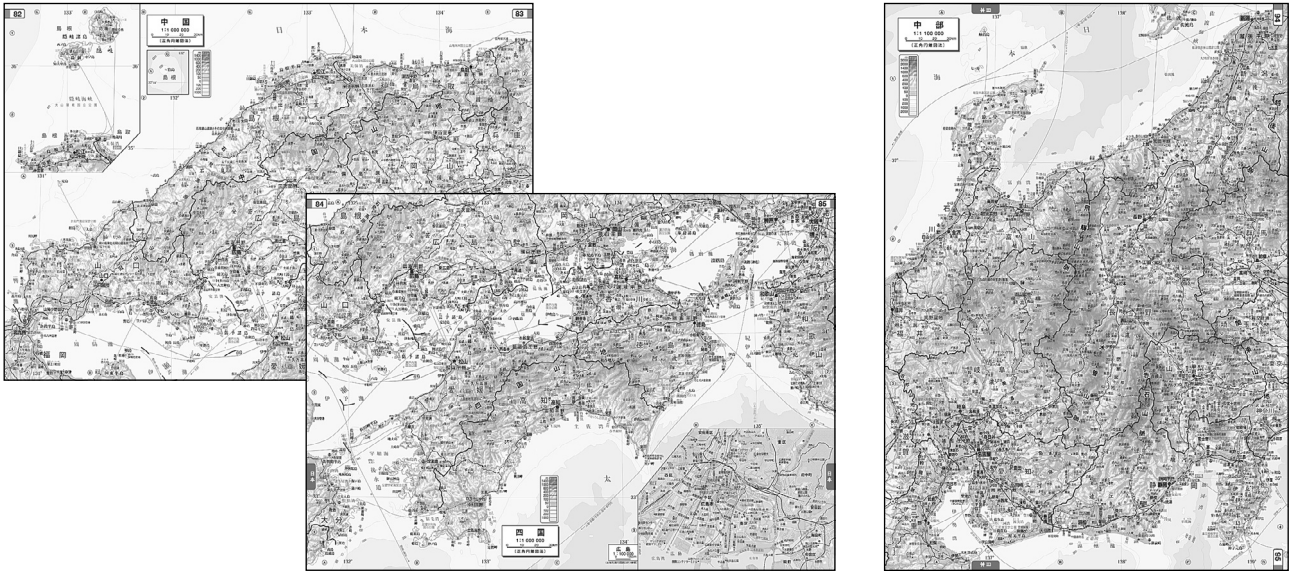
### 1) さまざまな地域規模で構成された世界の一般図

世界では「東アジア」、「ヨーロッパ」、「北アメリカ」など大州区分ごとの図のほかに、「西・中央ヨーロッパ」、「アメリカ合衆国東部」、「南アメリカ中央部」などの拡大図、「ユーラシア・アメリカ」のような広い範囲を扱った地図、「イスラエル・パレスチナ周辺」、「ベネルクスとその周辺」、「カフカス地方」のように狭く限られた地域を扱った図などさまざまな視点で世界を見渡すことができるものにした。特に今回の改訂では、近年の国際情勢で注目を浴びている「クルディスタン」や、中国の「ペキン周辺」、「長江下流域」、「珠江下流域」などの図を新しく掲載した。



## 2) さまざまなスケールの組み合わせで構成された日本の一般図と都市図

地方単位の図についてはその地方に見合った範囲・図取りを検討し、100万分の1から185万分の1という縮尺で掲載した。特に、中国や四国はそれぞれを1図に収め、中部は能登半島が一続きで見られるなど、日本についての空間認識が把握しやすくなるよう配慮した。人口集中地域では、拡大図として60万分の1「近畿・中京」「関東中央部」を掲載した。この拡大図においては、これまでの市街地表現を廃し、標高による表現を行うことで関東平野、濃尾平野、大阪平野などの広がりやゼロメートル地帯を読み取れるように工夫した。



## 3) 拡大されて詳細な日本都市図と「東京の地形」「名古屋の地形」「大阪の地形」「横浜の地形」

札幌、東京、名古屋、京都、大阪、広島などの詳細な都市図を作成した。この図では史跡・名勝などの歴史的観点、名所やテーマパークなどの観光的観点、商業施設やランドマークなどの商業的・都市的観点というさまざまな観点から、我が国の政治的・経済的・歴史的拠点となっている大都市や地方の拠点となる都市について、その土地利用とともに理解できる図となっている。さらに東京、横浜、名古屋、大阪については等高線の段彩だけで表現した地図もあわせて収録し、台地と谷、土地の起伏をはっきりさせ、土地利用が主体の都市図と比較することにより、どのような地形上に都市が成り立っているか、自然災害が起きた際にどのような問題が生じるかを考察することができるものとした。



#### 4) 美しい配色と詳細な地形描画により見やすくわかりやすい地図帳とする。

●一般図の地形表現から主題図にいたる地図帳全般を通じ、地名等の文字を読み取りやすくするため、明るい色彩にすることに努めた。一般図は全体を通して、標高による段彩表現を行い、平野の緑色系から山地・山脈の茶色系へと色を変化させることで、標高の高いところと低いところを明瞭にし、各地域の地形を把握させることを容易にした。

●地図学習において重要である国名や首都名を大きくし、ほかの地名との差別化を図った。また、国名や山脈名などには文字に白の縁取りを行い、色覚特性のある生徒に対しても配慮した。

●また、地形表現が緻密であるため、海岸線や地形の様子をはっきり読みとることができるようになっており、「フィヨルド」・「リアス海岸」・「鳥趾状三角州」・「エスチュアリー」など、地図で見てわかる地形名称を一般図上に掲載した。

#### 5) 最新の情報による現代社会の情勢を反映した地図帳とする。

●一般図を掲載する際、特に拡大図に関しては国際情勢を考慮した図取りを選択するとともに、最新の状況が反映されるよう努めた。

●主題図を作成するために使用した統計資料や地図などはなるべく最新のものを使用することを心がけた。国内外の地図をはじめ国際連合やその他の国際機関、各国の資料など信憑性の高いデータによって作成し、資料性が高く充実した内容となっている。

#### 6) 我が国、国土への愛着や関心がわく地図帳とする。

●我が国の国土を一望できる一般図「日本の位置」(p.78)を掲載。日本の東西南北端の写真を挿入し、国土について視覚的に理解できるものにした。

●統計資料では、日本の自然に関する統計を世界とほぼ同量にし、都道府県に関する統計も充実させて、地図だけでなく数値としても我が国の現状をとらえやすくした。

#### 7) 諸外国の現状を学び、他国や異文化を理解ができる地図帳とする。

●世界の一般図の地名は、今日の外国語教育や国際理解教育の普及をふまえ、現地音に近い表記となるよう心がけた。

●大州図のうち、「アフリカ」や「北アメリカ」の図には「同緯度同縮尺の日本」を、「南アメリカ」の図には「地球の正反対側においた同縮尺の日本」を描画した。これにより、日本との位置関係や日本との面積の比較がしやすくなり、諸外国への理解や関心が持てるようにした。

#### 8) 地理歴史科の地図として日本史や世界史への活用や、公民科にも活用できる地図帳とする。

●世界の一般図ならびに日本の一般図には、世界遺産、史跡・遺跡、名所・名勝などを記号や文字囲み、また色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。

●人口問題や環境問題など公民分野でも扱っている内容を取り入れて、地理歴史科だけでなく公民科にも活用することができる地図帳とした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の国々	冒頭のページにあたるので、地球という球面上の世界にいることを認識させ、政治区画の図を日本中心のものとし、世界の中で日本の位置を把握させるようにした(第五号)。	前1~2図1, 2
	冒頭のページに世界の独立国全てが見られる図を取り上げ、一覧性を高めて知識の定着と正しい空間認識が身につくようにした(第一号)。	前1~2図1

<p>地形 気候・植生・土壌 日本の主題図 (1) ～ (2) 世界の地形</p>	<p>多くの模式図や写真を使用して、世界のさまざまな自然条件のもとで人々が生活していることを理解させるとともに、火山や地震などの自然災害にも触れ、自然の重要性や恐ろしさ、災害の学習を通して生命の尊さを考察できるようにした (第四号)。</p>	<p>P.2～9 P.108～109 後 2～後 3</p>
<p>世界の一般図 ユーラシア・アメリカ, 東アジア, 中国東部,ペキン周辺, 長江下流域, 珠江下流域, 台湾, 朝鮮半島, 東南・南アジア, インドシナ・西インドネシア, 南アジア, 中央アジア, 西アジア, クルディスタン, イスラエル・パレスチナ周辺, ペルシャ湾周辺, アフリカ, アフリカ大地溝帯, アフリカ中・南部, 地中海, ヨーロッパ, 西・中央ヨーロッパ, ヨーロッパ東部, イタリア・バルカン半島, イギリス・アイルランド, 北ヨーロッパ, アイスランド, ベネルクスとその周辺, イベリア半島, スイス, カフカス地方, ユーラシア北部, 北アメリカ, 北アメリカ中央部, アメリカ合衆国西部, アメリカ合衆国東部, 中央アメリカ, 南アメリカ, 南アメリカ中央部, 太平洋・インド洋, オセアニア, オーストラリア東部, 大西洋, 北極・南極</p>	<p>世界における国土や環境の様相にかかわる情報を一般図に取り上げ, 知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした (第一号)。</p>	<p>P.10～73 までの一般図部分</p>
	<p>世界の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ, ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした (第四号)。</p>	<p>P.10～73 までの一般図部分</p>
	<p>世界の一般図に国立公園の範囲を示す記号とその名称 (一部) を取り上げた (第四号)。</p>	<p>P.36～37, P.56～59, P.68～71</p>
	<p>ヨーロッパの歴史や文化を考える上で欠かせない聖堂・教会, 宮殿・城の記号を掲載した (第五号)。</p>	<p>P.42～43</p>
	<p>一般図については史跡・遺跡などの名称を赤字にすることでわかりやすく表記した (第五号)。</p>	<p>P.12～73 までの一般図部分</p>
<p>日本の位置 日本主題図 (4)</p>	<p>我が国の国土の現状と周辺諸国との位置関係について理解できるようにした (第五号)。</p>	<p>P.78 P.111</p>
<p>日本の一般図 日本全図, 沖縄本島・南西諸島, 九州, 中国, 四国, 近畿, 近畿・中京, 中部, 関東, 関東中央部, 東北, 北海道および各都市図</p>	<p>日本における国土や環境の様相にかかわる情報を一般図に取り上げ, 知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした (第一号)。</p>	<p>P.76～107</p>
	<p>日本の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ, ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした (第四号)。</p>	<p>P.79～107</p>
	<p>日本の一般図に国立公園・国定公園の範囲を示す記号とその名称, ラムサール条約指定地を示す記号を取り上げた (第四号)。</p>	<p>P.79～107</p>

日本主題図 (3)	農業など産業に関係する図を掲載し、人間生活と産業のかかわり合いなどを考察できるようにした (第二号)。	P.110
環境問題 人口・人口問題 国家間の結合 国民所得・貿易	地球温暖化や大気汚染などのテーマから、地球の自然環境の保全や自然を保護していこうとする姿勢を養えるようにした (第四号)	P.112
	人口・貿易・環境など今日の社会を如実に現したテーマの主題図を取り上げることにより、社会への興味・関心・社会参画の意識が持てるようにした (第三号)。	P.112 P.113 P.122～123
言語・民族・宗教	文化の例として、世界や日本の言語や宗教がどのように分布しているかがわかる主題図を掲載した (第五号)。	P.114～115
農業・食料問題 資源・エネルギー	農業や工業など産業に関係する図を掲載し、人間生活と産業の関わり合いなどを考察できるようにした (第二号)。	P.116～121

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 1) 地図を見るための工夫

大州ごとにページの飾りやインデックスの色を統一することで地図が探しやすい、目的のページに容易にたどり着けるような工夫をした。また世界の一般図にはインデックスマップを入れ、地球上のどの部分の地図を見ているのかがすぐに理解できるようにするとともに、隣接する地域のページがわかるようにした。

#### 2) 色覚特性のある生徒への配慮

色覚特性のある生徒にも見やすい地図帳にするため、上記で記載した事項のほかに、①市街地は黄色で表現する、②道路を茶色の2本線で表現する、③主題図の階級区分での色に差をつけるなどの工夫をした。

#### 3) 長期の使用にも対応した用紙と製本

高等学校において地図帳は3年間もしくは4年間の継続的な使用が考えられるので、長期の使用に耐え得る用紙の選択と頑丈な製本方式での造本を心がけた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-103	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 314	高等地図帳 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本地図帳は、学習指導要領「地理A」「地理B」を参考にして作成するとともに、主題図の項目は系統地理学的視点から配列されている。また、地誌学習にも十分対応できるようにそれぞれの項目には地域の詳細な図版も掲載した。

### 1) 一般図について

●世界の一般図に収録した世界遺産、国際空港、日本から直行便のある空港、高速自動車道、戦跡、史跡・遺跡、ロケット発射場などや、日本の一般図に収録した政令指定都市、中核市、世界遺産、ラムサール条約指定地、名所・名勝、史跡・遺跡、テーマパーク等の名称は、記号・文字囲みや色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。さらにこれらの地名等を増やすことによって、地理の分野だけでなく、世界史・日本史・現代社会など地理歴史科・公民科の授業においても効果的に利用できるようにした。

●日本では、縮尺を1:100万と1:115万（北海道、東北を除く）とし、拡大して見せる地域と範囲を広くして見せる地域に分けて掲載した。これにより、47都道府県すべてが図取りで切られることなく見ることができる。人口が集中して地図情報が過密な関東中央部と近畿・中京については1:60万の拡大図で補った。これら一般図は、学校における授業だけではなく日常生活においても広く利用できるように配慮し、最新の資料を収録して、普遍性の高い、辞書的な役割を持たせた。

### 2) 主題図について

●地形や気候などの自然環境は、地理の分野の中でも基礎・基本となるため、本書の先頭に配置した。また、地理Aでは自然災害と防災が設けられていることを考慮し、地形の最後に自然災害を学ぶページや日本主題図に火山や地震の図を設けた。

●言語・民族・宗教、農牧林水産業、資源・エネルギーなど世界主題図のページについては、世界図レベルで大観させるとともに、主要な地域については地域図レベルの主題図を収録して詳細に学習できるようにした。

●地理Aと地理Bともに地球的課題を扱っているため、人口問題や環境問題などを扱うページを設けたりするなどの配慮をした。

●日本の主題図では、自然・人口・産業などさまざまなテーマの主題図を掲載し、多面的に日本をとらえられるようにした。農業分野では、写真やイラストも併用して親しみの持てるものとした。

### 3) 統計資料・索引について

●統計資料については、基本的な事項を取り上げ、世界各国の最新データが読み取れるようにし、索引については国名や首都名、県庁所在地などに太字を用いて検索しやすくなるようにした。

●統計資料の一部はカラー化を行い、自然統計ではイラストを用いるなど見やすさや興味・関心が持てるようなレイアウトにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界の国々 地球に関する数値 等時刻帯	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	前 1～前 2	
地形	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (2) イ 自然環境と防災 地理 B (2) ア 自然環境	P.2～5	
気候・植生・土壌	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) ア 自然環境	P.6～9	
世界の一般図 (ユーラシア・アメリカ～ 北極・南極)	世界の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。	P.10～73 の 一般図部分	
世界の都市図	高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基 づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.74～75	
日本の一般図・都市図 (日本全図～ 北海道)	日本の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。 都市図は、高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地 図)〕に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.76 ～ 107 の一般図部 分	
日本の位置 日本の行政区分	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.78 P.111	
日本主題図	地理 A (2) イ 自然環境と防災 地理 B (2) ア 自然環境 地理 B (2) イ 資源、産業 地理 B (2) ウ 人口、都市・村落 地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.108～110	
環境問題	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ア 自然環境	P.112	
人口・人口問題	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ウ 人口、都市・村落	P.113	
言語・民族・宗教	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化、民族・宗教	P.114～115	
農牧林水産業	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源、産業	P.116～118	
資源・エネルギー・工業	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源、産業	P.119～121	
世界の航空路・国家間の 結合	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源、産業	P.122	

国民所得・貿易	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.123	
地図投影法	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.124	
統計資料	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)]に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.125~137	
地名索引(世界), 地名索引(日本)	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)]に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.138~151	
地質年代表	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) ア 自然環境	P.152	
地図の歴史	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	後 1	
世界の地形	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) ア 自然環境	後 2~3	